

とよなか市民環境会議 ニュースレター

Toyonaka Citizens Environmental Conference

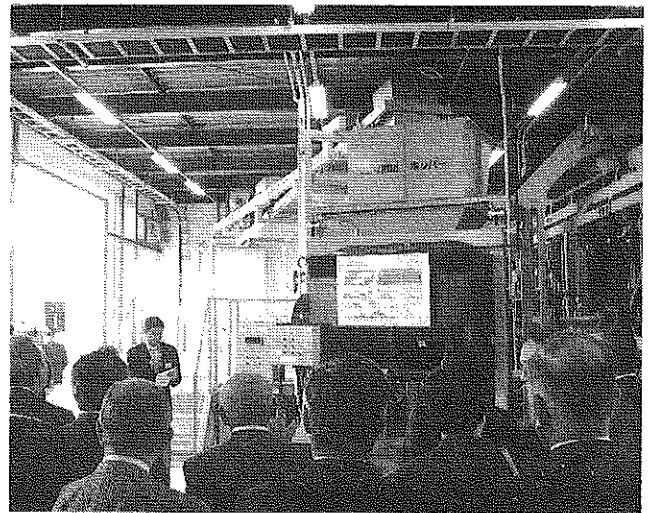
2002年(平成14年)6月号(通巻第17号)

緑と食品のリサイクルプラザオープン

生ごみ堆肥化が本格的に移動

「緑と食品のリサイクルプラザ」——原田苗圃内に新しくできた生ごみ堆肥化施設の呼び名です。

4月12日午前10時からの開所式には行政、市民環境会議のプロジェクト代表、地元の市民、市議員など70人が参加し施設のオープンを祝福しました。一色市長、清水市議会議長、地元の奥田自治会長とともに、生ごみ堆肥化実験プロジェクト代表の高島さんもテープカットに並び、参加者全員の「3、2、1、



ゼロ」の掛け声でテープにハサミをいれました。

開所式に続き、市長の手で機械のスイッチが入られ、ベルトコンベアが走るのを眺めつつ堆肥が造られる流れについて説明を聞きました。

この堆肥化設備の1日最大処理能力は、生ごみ1トン、剪定枝1.25トンで、4基ある発酵槽で4日ほどで発酵が進められ、その後1次熟成槽、2次熟成槽を経て4ヵ月後にはきれいな堆肥になる設計です。

参加者は1時間余りの間、熟成槽の堆肥を手にとって臭いを嗅いだり…。地元の市民の方は「もし臭気が漂うことがあればどこに連絡すればよいのか」などの質問もされていました。食品リサイクル法に基づいて動きだしたこのリサイクルプラザのオープンが、食の資源循環の道を開く記念すべき日になることを願いつつプラザを後にしました。(奥野)

本号のハイライト

- P. 1 『緑と食品のリサイクルプラザ』オープン
- P. 2~3 各部会プロジェクトの活動
- P. 4~5 花と緑のネットワークとよなか
- P. 6 参加団体の横顔・市立第三中学校
- P. 7 ひと・人・hito -堀 正恒さん

生活部会：出前環境学習「ごみってなに？」

ごみから何がみえてくるのか、3月1日小曾根小学校4年生の子どもたちと一緒に学習しました。

2時限目 どんなごみがあるかな？

自分たちの身の回りにはどんなごみがあるか、子供たちに聞きました。1学期に学校近くの公園・スーパー・お寺・マンションのごみ調べ・取材をして壁新聞にまとめ学習していただけあって、手がどんどん上がり元気な声も出て、はじめの緊張感もとけ楽しい雰囲気になってきました。紙に書いたごみを分別しました。可燃・不燃・紙・布・ガラスびん・ペットボトル、子どもたちの手で黒板に貼り付けられ、隙間がないくらいです。次は再利用できるもの探しです。リサイクルは当たり前、リユースと言う言葉も返ってきてこちらが驚きました。

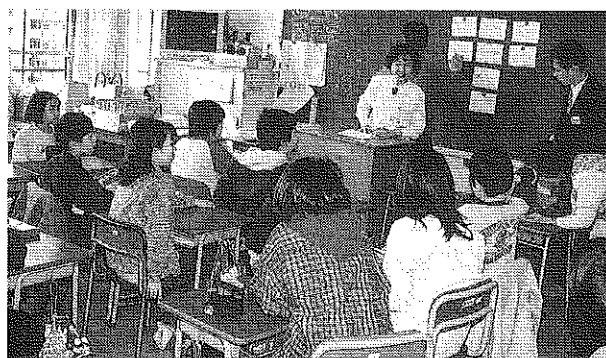
3時限目 資源の再生・循環について

トイレトペーパー・給食の食べ残しの堆肥化を話題に再生循環の学習をしました。特に会員が海外旅行の際収集した各国のトイレトペーパーを回覧すると、子どもたちの好奇心あふれるざわめきが教室に広がりました。感触を実感し、白色度や紙幅の少し小さいことなど興味津々でした。後日、子どもたちから

届いた感想文にもそれが感じとれました。

4時限目 ゲームと絵本の読み聞かせ

環境学習の仕上げは、場所を多目的室に移し、子どもの好きなゲーム感覚と視覚で環境について考える時間です。生活部会が制作した「ゲームdeエコロジー」です。ブルーシートに問題を置き、スタートしながら一つずつ回答し、矢印に従って進む。たちまち笑い声があふれにぎやかな学習になりました。ゲームの交替の間は絵本の読み聞かせです。「ごみ箱にぼい」「だいじょうぶ だいじょうぶさ」「子犬のうんち」など、メリハリのきいた声に聞き入り、循環・資源の大切さを学びとったようです。



自然部会が取り組む今年度の計画

- 自然に親しみ学ぶ
- 自然を守り育てる
- 自然を作り広げる

この3つの柱をモットーに活動を続けています。限られた部員で行事が多すぎるといながらも、年度末の反省できていなかった点を改めようとするとか、年度途中で他からの依頼には応えるなどして、行事は増えています。本年度も20数回の行事が計画され、その準備・整理を含めると年間50以上の活動になると予想されます。

観察会

- ・ヒメボタル観察会（5月18日19:00～野畑小）
- ・初夏の自然観察会（6月8日13:00～猪名川）
- ・水生生物観察会（7月27日9:30～千里川）
- ・鳴く虫観察会（9月13日18:00～服部緑地）
- ・秋の自然観察会（11月16日10:00～千里中央公園）
- ・水鳥観察会（2月22日10:00～猪名川）

自然学習講座（演題は仮題）

- ・「調査活動と自然」（9月14日布谷知夫さん）
- ・「昆虫から学ぶ」（10月25日川副昭人さん）
- ・「都市計画と自然」（1月25日 中村 徹さん）

自然保護活動

- ・天竺川の清掃（7月13日9:30～）
- ・島熊山の清掃（10月5日10:00～）
- ・猪名川自然林（11月2日10:00～）

調査活動

- ・豊中版秋の七草調査（4年目）



その他

学校剪定枝堆肥化支援／地球環境シネマ「里山物語」（8月3日）／アクアユートピア支援／ふれあいウォーキング支援／生活展／総合的な学習支援 他
なお、各行事への参加は市民他市の人を問わず、自由で無料です。詳細は6858-2106まで

交通部会の昨年度の取り組みから

交通部会では、実行可能と思われる『アイドリング・ストップ』運動を中心にこれまで活動が進められてきました。その中で公共交通については乗客全体の特に冷暖房に関する認識と理解がなければ実行しにくいことが指摘され、まち全体のムードづくりの必要性を確認、そのためステッカー等が作られました。現在もまち全体のムードになったとは言い難く、以後継続してステッカー貼付の活動が続けられています。

昨年度は、豊中アジェンダ 21 の行動提案「積極的にまちづくりに参加して、歩いて楽しいまちをみんなでつくろう」をメインテーマに、以下のような活動を行いました。

まず、「そね 21 の会」による通学路の通過交通調査に参加させていただき、次に豊中市教職員組合の通学路の安全についての実態調査を、活用させていただくなどして『ひやりマップ』づくりを行いました。

このなかには、貨物運送事業者や旅客輸送事業者から見た危険箇所、市販の抜け道地図からの書き込み等もあります。（この地図は環境展で展示されました）

この作業過程の中でいろいろな方のお話を聞き、改めて豊中市の交通事情の悪さ、特に学童や交通弱者といわれる人にとって日常的な危険がいっぱいという感を否めませんでした。たとえば、普通の道路地図には、掲載されない道路、それはその地域の生活者の生活道路であ



るはずなのに、わざわざ「抜け道地図」を作成販売することで、安全なはずの生活空間を危険なものにしていることを、通学時、脇の塀にへばりつき片足は溝の中という格好で自動車を避けている学童の姿に、改めて痛感しました。

その他、ダイハツ工業（株）で天然ガスのエコステーションの見学。近未来の豊中市内でのエコステーション建設も視野に入れて議論が行われつつあります。

部会の度にアドバイザーの新田先生からは、バリアフリーに関して、あるいは海外レポート等、共通認識を高めるようレクチャーがあります。

一市民として独断と偏見で書きました。事業者の方にも是非ご意見やご感想の執筆を頂ければと思います。

（荒井道子）

産業部会の取り組みの現状と課題

産業部会の活動は、豊中の企業人としての環境問題への取り組みです。豊中アジェンダ 21 の策定過程でとよなか市民環境会議で扱おうとする環境問題は、規則や規制で強制されるものでなく、資源やエネルギーなど地球環境問題をそれぞれの企業の責任で受けとめて、できることを見いだして行こうとするものであることが浸透してきました。

また、豊中アジェンダ 21 の策定に先立って、ISO 14000 シリーズの取得に向けた内外の動向を学習、自主的に取り組む必要を認識し、アジェンダ 21 をまとめることができました。

産業部会は、環境目標像である豊中アジェンダ 21 策定に引き続き、事業者の環境度をチェックするための方法を検討しました。企業の業種がさまざまな中で共通する測定が必要で、すべての事業者が共通して持っているオフィスの環境対応度を測るチェックリストを作成、環

境目標像の各分野をカバーできるものを検討し、事業者用 30 項目、個人用 15 項目のチェックリストを試行錯誤しながら作成（ニュースレター 12 号、昨年 3 月発行にも掲載）しました。

また、病院連絡協議会の実施した機密書類のリサイクルは、部会の中での議論をもとに環境事業部と病院連絡協議会が実施方法を詰めて行ったものですが、一般の企業に広がるものになっていません。

部会での環境活動アンケートから、今後の産業部会の活動方向としては、環境に関連する情報の提供、環境や ISO についての講演会や研究会の開催、市民との交流の促進や協働行動の推進、環境優良企業の表彰制度の整備なども考えられるでしょう。

（この記事は、㈱ジャスがまとめた「とよなか市民環境会議の現状と課題」から要約しました。）

生ごみ堆肥化から 永続型社会の第1歩

豊中市では収集された生ごみをクリーンランドで焼却していました。一方、市民グループが、土からのものは土に返すという思いで、それぞれの家庭の生ごみをボカシバケツを使って堆肥にし、庭の剪定枝をコンポストに入れて堆肥にしていました。

平成12年にとよなか市民環境会議の中で、市民と行政・労組などとパートナーシップにより、市役所食堂の生ごみ、生協の野菜屑、剪定枝から堆肥を作るプロジェクトが始まりました。クリーンランドにドラム式の機械を据えて実験を繰り返しました。

植物の葉や実が地面に落ちて、土の中で分解し、それが吸収されて植物が育つ、という自然の循環が永続型社会の根幹です。食の循環の形で、豊中市がその第1歩を踏み出しました。

豊中市の事業に 引き継がれる

堆肥化実験により、臭いもなく、手で触ってもベトベトしないいい堆肥ができたので、市が直営事業として取り組むことになりました。食品廃棄物規制法の対象になる給食センターの生ごみと公園・街路樹・学校などの剪定枝が原料です。

堆肥化プロジェクトが 本格的にはじまる

平成14年4月12日に「緑と食品のリサイクルプラザとよなか」の開所式をし、最初は生ごみ300kg/日で試運転を開始しました。発酵槽から臭いもなく、いい堆肥が取り出され、目下静かに熟成中です。納入業者は松下環境空調エンジニアリングで、同社の技術者が運転を指導し、不具合の手直しをしています。来年は生ごみ1トン/日になる予定です。

緑と食品の



いちご収穫

堆肥



リサイクルプラザ

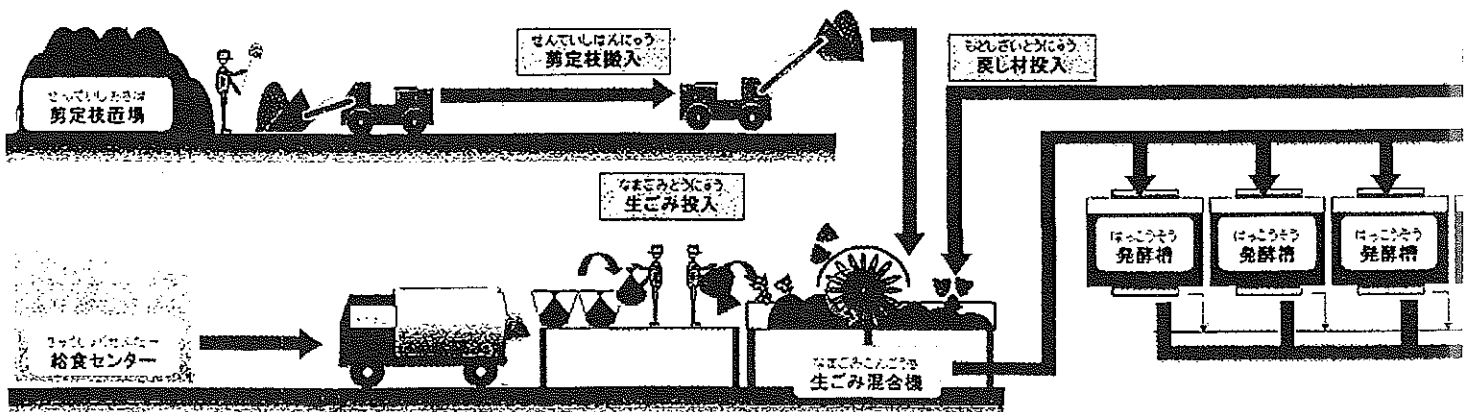
野菜

自然
循環

はじ

生ごみ

生ごみが堆肥



リサイクル

できた堆肥は実験農地で
おいしい野菜づくりに

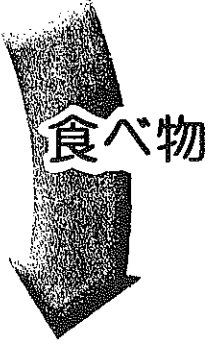
花
↓



野菜販売

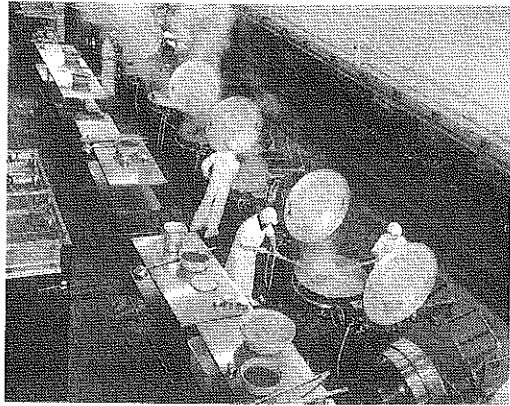
従来、協力してもらっている実験農地は豊中市の橋本さん、箕面市の柳沢農園、豊能町の大谷農園ですが、リサイクルプラザの稼働により、継続して安定的な供給ができるようになります。お米の味がよく、とうもろこしやさつまいもは甘く、大根の肌がきれいで評判も上々です。従来も環境展・クリーンランドフェスティバル・くらしかんバザーなどのイベントで頒布してきましたが、今後は継続的に安定して頒布できるようになります。市民のみなさんも豊中市自前の原料でできた堆肥を使った野菜などの農作物を味わって下さい。

自然の
環境を
保つめる



花いっぱい運動にも取り組む

豊中市生まれの堆肥を土に入れて、いろんな場所を花いっぱいにする活動もしています。清谷池公園・柴原公園・くらしかん・さわ病院・大門公園・神崎刀根山線・豊南ことぶき会花壇など市内15カ所で花が咲き誇るようになりました。花と緑のネットワークのメンバーが地元も市民グループと協力



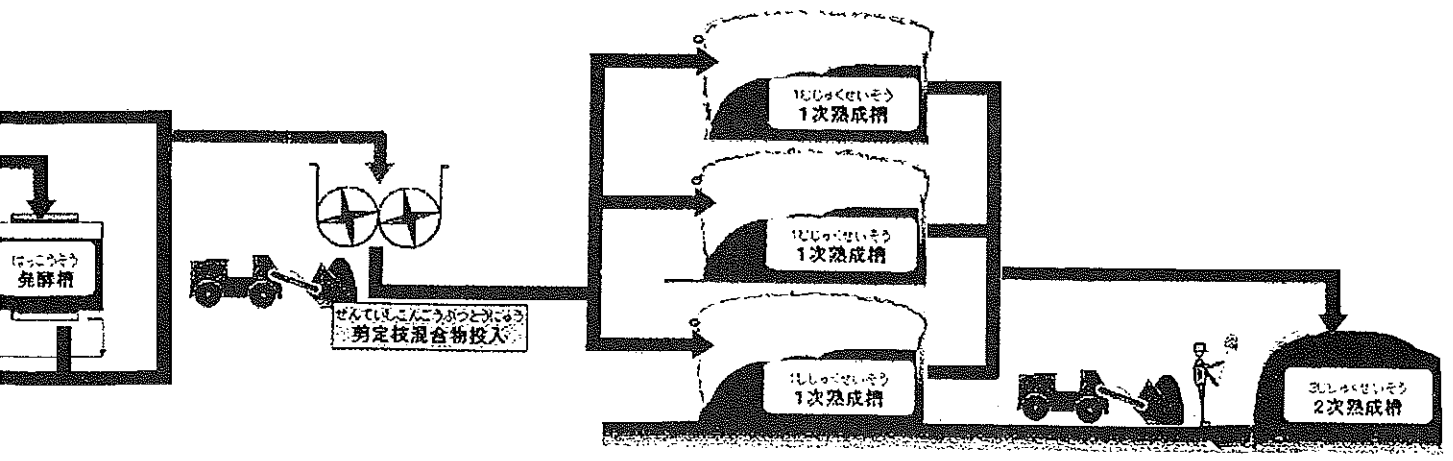
給食センター

して整地し、堆肥を入れました。市民の手による手作りの花壇が市内に少しずつ増えていって、花いっぱいになればどんなにすばらしいことでしょう。

食の循環⇒体の健康 花いっぱい⇒心の健康

おいしい農作物を食べて健康な体をつくり、身近に美しい花があれば、見る人のいやしとなって心の健康に役立ちます。

堆肥になるまで



ボランティア学習から気づいたこと

豊中市立第三中学校

豊中市立第三中学校の1年生260人は、昨年9月28日校区のボランティア清掃に取り組んだ。これは地域体験学習として生徒たち自身が考えたもの。校区を10ブロックに分け、大門公園や夕日丘では自治会の人に助けられながら、約2時間の清掃で集めたゴミは、45リットルのゴミ袋で可燃ゴミ10袋、不燃ゴミ14袋、ペットボトル3袋、アルミ缶9袋。特にタバコの吸殻やガムの多さが、生徒たちの印象に残ったようだ。

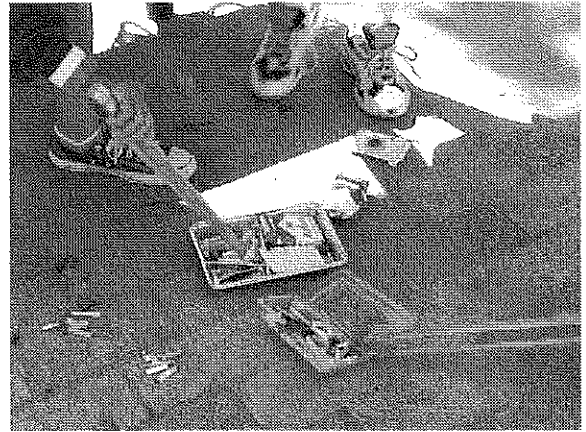
生徒たちはゴミの多さ、マナーの悪さに驚きながら、清掃の結果を分析した後、「マナーの向上」「リサ



イクル」「ゴミの減量」などをテーマに、自分たちが感じたことや、インターネットや本で調べたことをまとめ、3つの班に分かれてポスター、チラシ、壁新聞を製作。11月22日、「私たちの提案」として体育館で発表会を行ない、その様子はケーブルテレビでも放映された。

さらに地域体験学習の成果を発信するために、ポスター、チラシ、壁新聞を12月10日から第三中学校正門からグラウンド南側にずらりと展示、地域の人々に大好評だった。

そしてその後、地域でのゴミのポイ捨てが多少減った現在、生徒たちは、去年の地域の環境保護、ボランティア活動から視点を広げ、夏に行なわれる体験学習フィールドワークへの準備学習をしている。今年は水、食物など豊中市と密接な関係があり、環境保護のボランティアが盛んな琵琶湖が体験学習の舞台だそうだ。



来年、3年生の修学旅行では、自然保護に取り組んでいる上高地などを見学し、中学時代3年間を通じて、生徒たちに環境の大切さを考えてもらう予定だ。

今年4月から導入された新指導要領で、地域との連帯や環境教育がより重視される中、現在の1年生は、去年の1年生とは違う形で地域体験学習をすることになるそうだ。去年の地域清掃活動の反省点、「時間、技術の制限」「イベント的で継続しにくい」「同時に清掃する200人以上の生徒の安全の確保」をふまえて、よりよい地域体験学習の方法を模索していく。

一番いい地域体験学習の方法を確立するには、今後数年



かかるだろうとのこと。

体験学習を指導する先生方の一人の「これからの時代、環境問題は避けて通れません。体験学習の経験が何かの形で子どもたちの心の中に残ってくれば」という言葉が印象的だった。(小南)

ひと・人・hito 堀 正恒さん（豊中自動車教習所所長）

このコーナーでは、地域や家庭など身近なところで環境に取り組んでいる人を紹介しています。

堀正恒さんを自動車教習所に訪ねたのは雨の降りしきる5月のある日、午後でした。堀さんは豊中自動車教習所所長です。教習所は豊中駅から数分歩いたところ、千里川の傍にありました。

「こんな雨の中、足を運んでもらって申し訳ありません。私の方から出向いて行けばよかったのですが」と心やさしいあいさつです。

アジェンダ21をつくるために部会がスタートしたときから、堀さんは交通部会のまとめ役としての部会長。何がきっかけで部会長に？

「以前から交通安全協会会長を引き受けて10年ほど。交通部会に来ているメンバーの方はほとんど協会の会員であり、顔見知りの仲間ばかりでしたから」

交通安全協会だけでなく豊中・サンマテオ姉妹都市協会の会員でもあるとか。ですから顔も広く多方面に付き合いのある人だと見てとりました。交通部会にとりまさに格好のまとめ役と言うべきか。

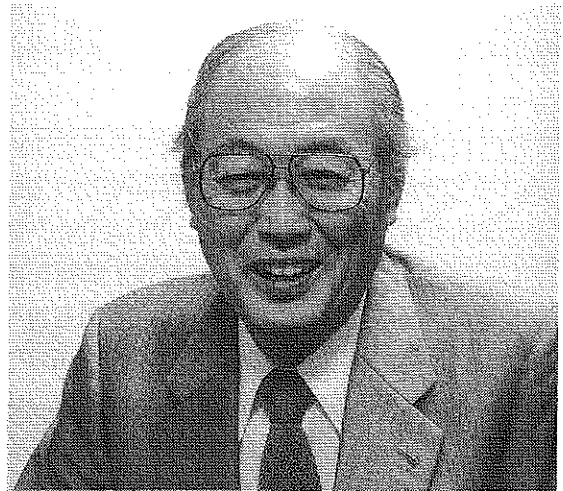
名刺には代表取締役の肩書き。有限会社としての経営。私企業でありながら、公安委員会の認可事業であり公的な性格の強い会社です。

——社長業は忙しいでしょうから、教習所の実地教官はむりとしても、ときには教壇に立つて交通法規など学課を教えるのでは？ 細やかな気配りの堀さんだからきっといい授業になるでしょう。

「いや、公安委員会からは教壇に立つことを禁止されています。代表取締役は全体業務を総括することが責務だから、と言われていています。もちろん教官の資格はあるのですが…」 まったく堅苦しい話です。

交通部会の活動では、ストップ・アイドリングも続けてきましたが、今後の運動についての考えは？

「たしかに、無駄にガソリンを消費するアイドリングはやめたほうがいい。この4年間の運動でステッカーを貼る車が増えてきたのも感じられます。意識する人が徐々に増えて来たのでしょうか。でも、タクシーのように客を扱う車などは、分かっているにもかかわらずその通りにはやりにくい場合があるでしょう。環境問



題の意識をもつ人を少しずつでも増やしていくことだと思っています」 慎重な話しぶりです。

「教習所の送迎用の車ですが、6、7人乗りの車では4輪駆動しか製造されていないくて、経済性から言っても効率の悪いものしかありません」

やっぱり、環境だけでなく経済面でも思うようにならないことがいっぱいようです。悠揚迫らぬ空気とともに厳しい現実の話がちょっと顔をだします。

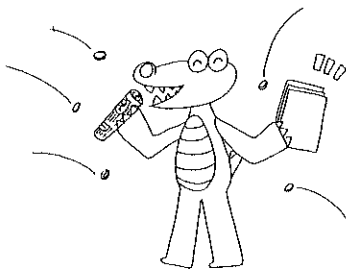
8月の環境サミットが目前ですが、京都議定書へのサインを米国は拒否しています。世界の環境問題も重要な時期にさしかかっています。日本では長引くデフレで、環境よりも景気回復を優先する考えが強くなっているようにも思います。そんなときに企業人として運動をどうやって行けばよいのでしょうか？

「やっぱり一人でも多くの人意識を変えていくことでしょう。辛抱強く運動を続けていかないとならないでしょうね。ハイブリッドカーなど省エネの車もありますが、割高で一般に普及するところまで行きません。でも視点を変えると、米国でも以前は3千CCや6千CCのフルサイズの子ばかりが走っていました。それが排気量の小さな車に代わりました。環境への配慮は世界中で強くなっています。変化は着実に起こりつつあると思っています」無理をしない堀さんの姿勢に、交通部会のある種の空気が伝わってくるように感じました。とよなか市民環境会議の、一つの大きな柱に接した感じでもありました。 (奥野)

創作民話「最近のワニの生活」

淀川べりには背の高い葦がぼうぼうになっています。川に抱きつくように小屋に畑もできています。葦原をぬって迷路のように進んでいきました。じゅうたんを貼った壁、葦を並べたすすしい壁、ベランダをのせた小屋もあります。波打ち際に出ると、中州まで橋もかかっていた。鉄パイプと板を張り合わせたようなヒョロヒョロの橋です。

ワニは淀川べりが気に入って暮らそうと決めました。ワニは淀川の葦を切って小さい舟をたてました。その葦舟を浮かべて、毎日梅田に下りました。淀川のトレーやプラスチックや新聞や葦や土や靴を拾ってのせていきます。そして梅田の通りでそれを食べて再生紙を尻から出してみせました。投げ銭ライブです。日が暮れると投げ銭で切手やカメラやプリンや酒を買いました。鉄パイプやじゅうたんも拾いました。図書館で本も借りました。帰りの葦舟は帆をはって、海からの風と満潮にのって帰りました。夜になると川で泳いで魚を食べました。(つづく) (三宅)



編集室から

地球温暖化からCO2削減が議論の中心になりがちだが、一方ではごみ問題が避けて通れない課題としてどこでもよく話題になる。フライブルグでは生ごみリサイクルなどでごみが減り、残った埋め立て処分のごみの中では、使い捨てオムツの比重が10%を占めるほどに大きくなったのが問題化している。市は、布オムツの代金が貸しオムツ利用代の3割(上限100マルク)を補助金として出しているが、利用者は1割弱にしかならないとか。ごみ問題は生活者にとっていちばん身近であるだけに、ライフスタイルを改める入口として、どこの国でも重視されているテーマなのだと改めて再認識させられている。(Z)

《広報チーム》 Z奥野、H山口、M荒井、Y小南、T浅井、E三宅、A亀村、M東郷、P大村

今後のスケジュール

とよなか市民環境会議総会

とよなかアジェンダ21推進会設立総会

- 日時 6月25日(火)
- 場所 豊中市立市民会館

水生生物観察会

- 日時 7月27日(土)午前9時30分～
- 場所 千里川(箕輪親水公園)

豊中まつり

- 日時 8月3日(土)4日(日)
- 場所 豊中市立市民会館
- 内容 パネル展示・映画上映・竹工作
生ごみ堆肥の頒布など

*詳しくは「広報とよなか」をご覧ください。

◎次の部会等は定例的に会議を行っています。参加を希望される方は、事務局までお問合せください。

自然部会 毎月第2月曜日 18時～

生活部会 毎月第3土曜日 13時30分～

ワキンググループ 毎月第4水曜日 19時～

◎交通、産業部会は、随時会議等を行っています。

詳しくは、事務局までお問い合わせください。

[活動報告]

第10回環境自治体会議於二つ井 5/22～24

内容：エネルギーについて

出席者：新開、山口、宮田、荒井M

とよなかアジェンダ21推進会の発足

前号でも書きましたが、ワーキンググループが組織を改め「豊中アジェンダ21推進会」に変わります。6月25日に開くとよなか市民環境会議総会に引き続き、設立総会を開き、会則、役員も決定し、入会を呼びかけます。ご参加をお願いします。

発行：とよなか市民環境会議

編集責任：奥野 享

事務局：豊中市生活環境部環境企画課内

〒561-8501 大阪府豊中市中桜塚3-1-1

TEL：06(6858)2106 FAX：06(6842)2802

Eメール kankyouki@city.toyonaka.osaka.jp

★とよなか市民環境会議は、市民・事業者・行政の
パートナーシップ組織です